

金沢大学 神経内科

年 報

第 6 号

2005 年 1 月～ 2005 年 12 月

金沢大学大学院 医学系研究科 脳医科学専攻
脳病態医学講座 脳老化・神経病態学（神経内科）

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med19/>

目 次

年報第6号の刊行にあたって	1
[1] 出来事・人事異動	3
[2] 診 療	9
[3] 症例検討会・各種カンファレンス	15
[4] 教育活動	22
[5] 業 績	27
[6] 研究助成	57
[7] 褒 賞	58
[8] 特許出願	58
[9] 関連病院の施設紹介	59
[10] 大学在籍者名簿	65
編集後記	67

年報第6号の刊行にあたって

2005年（平成17年）の教室の記録を年報第6号としてまとめました。第1号の2000年（平成12年）版を出したのは私が当教室に赴任した時でしたので、はや6年が経過したことになり、時の速さには驚かされます。

2005年は、わが国で、世界で、さまざまな事件がおきました。全国各地で多発した小児殺人、インターネットサイトを悪用した多数殺害などの信じられないような事件が連続しました。4月には尼崎で100名以上が犠牲になるという脱線事故がおき、安全性を軽視した無理な運行ダイヤが問題になりました。全国各地で“振り込め詐欺”が頻発し、11月にはマンションやホテルの耐震強度偽装が発覚しました。IT関連企業による大手メディアの買収騒動や投資ファンドグループの暗躍など、常軌を逸したマネーゲームも大きな話題になりました。社会全体でモラルの不在があからさまになり、信頼性が大きく揺らぎ、歪みが露呈したように思います。政治は“劇場化”という言葉に象徴されました。一年を象徴する一字を選ぶとすると『偽』の字でしょうか？ 世界に目を向けると、米軍駐留下にあるイラクは依然として不安定な情勢が続き、ロンドンやバリ島でも同時爆弾テロがおき、多くの方が犠牲になりました。

また、私達に関わる医療、保健面でも、新聞の一面に大きく取り上げられるような事件がありました。2005年2月4日、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）サーベイランス委員会はBSEが原因とされる国内初の変異型CJD患者を確認、厚労省審議会に報告し、同日厚労省から概要が発表されました。私がサーベイランス委員会の委員長をしており、委員会事務局が教室にある関係で、それからの数カ月は目の回るような忙しさでしたが、一番心配したのは患者さん（ご家族）の個人情報保護の問題でした。メディアの強烈な取材攻勢がありましたが、関係する方々の高いモラルと適切な対応によって、患者さんのプライバシーが守られてきたのは、当然のこととはいえ、ホッといたしました。12月には、食品安全委員会の答申に基づき、BSE発生で2003年から停止されていた米国とカナダからの牛肉の輸入再開を政府が決定しました。また、アスベスト吸入による中皮腫等の健康被害が関連企業の元従業員や住民に広がっていることが改めて注目されました。

金沢大学大学院医学系研究科および医学部附属病院は、独立行政法人化、臨床研修必修化などの大きな機構改革後2年目を迎えました。独立行政法人化では、診療や研究において、採算性、研究費や特許の獲得などを推進するために、実績の評価やそれに基づく予算配分が一部で工夫されるようになりました。臨床研修制度では、大学病院には研修医は集まらない傾向がいよいよはっきりし、今度は、初期研修修了後の後期研修コース（専門医コース）に若い医師を集めるための努力が始まりました。また、病院では外来診療に2005年8月から電子カルテが導入され、画像のフィルムレス化が進みました。

本年報をみながら、2005年の私達の教室の診療、教育、研究の状況を振り返ってみますと、教室の活動は、教官、医員、大学院生、臨床心理士、検査技師、事務職員の方々

はもとより、院内や学内の方々、学外の共同研究者の方々、診療や学生教育を助けてくださった関連病院の方々、当科研究室に他から研究にきてくださっている大学院生など、多くの方々のご協力によって支えられており、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

診療面をみると、外来では初診、再診ともに当科受診患者数は増加を続け、特に初診患者数はこの6年間で倍増しました。認知症の専門外来である『もの忘れ』外来は初診から完全予約制をとっていますが、極めて多数の患者さんの受診希望に答えるだけのマンパワーが教室にないために、予約枠が常に満杯の状態が続いており、大変申し訳なく思っております。病棟では、年間を通じ入院待ちの状態が続き、患者さんに御迷惑をおかけいたしました。少ない病床数(20床)の関係もあり関連病院との連携によって何とか対応している状況で、特に救急患者については、今後、関連他科と共同して脳血管障害診療体制の確立を急ぐ必要性が痛感されました。

教育面では、医学科学生の神経内科の実力は着実に伸びてきており、それが彼らの卒業時の成績にも現れてきました。また、2005年からの新たな取り組みとして、課外イベントとして『金沢神経内科アカデミー』を始めました。これは、神経系に興味をもっている人達(学生や研修医)に、通常の実習や研修のレベルを超えたコースを用意するもので、臨床神経学と共に神経疾患の研究にもトライしてみる(神経免疫、神経化学、神経病理、遺伝子などのコースから1つを選択)といった内容です。研究の方はうまくいったグループも、うまくいかなかったグループもありましたが、皆さん楽しんでいただけたようでした。

研究面では、認知症・アミロイド、神経免疫等の研究を行いました。教室の研究の質をみると、臨床研究を中核に、一方では研究室での分子レベルの実験的研究、他方では全国規模の疫学的研究まで、非常に幅広い活動をしているのが特色ではないかと思えます。疫学研究は倫理指針の厳格な遵守など、最近ではなかなか苦勞の多い分野となっていますが、当教室では、プリオン病研究班CJDサーベイランス委員会におけるプリオン病サーベイランス、アミロイドーシス研究班における脳アミロイドアンギオパチー全国調査、神経免疫研究班における重症筋無力症の全国調査など、多くの疫学研究が活発に行われています。研究の中心は大学院生であり、研究室での実験から、臨床、全国疫学調査まで、スタッフの指導を受けながら全力で取り組んでいるというのが現在の姿と思えます。こうした経験で得られる幅広い見識は、彼らが将来どんな方向に進もうとも、臨床や研究活動等を推進していく上で、きっと役にたつものと確信しております。

私達は神経疾患の予防や治療を通じて、患者さんの幸福の一助となり社会に貢献できる、『偽』ではない『真』の神経内科をめざし、一層努力していきたく思います。この年報第6号を皆様方に御高覧いただき、一層の御指導を賜わりますことができましたら誠に幸いに存じます。

平成18年3月

山 田 正 仁

[1] 出来事・人事異動

(1) 2005年医局の出来事

2005年2月12～13日 医局旅行（山中温泉）

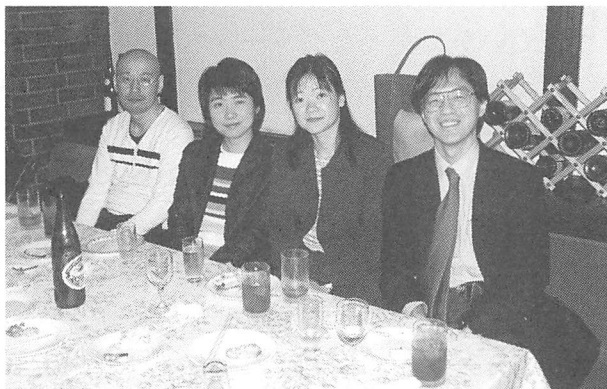


2005年2月15日

医局送別会（金沢）

2005年4月26日

新人歓迎会（金沢）



2005年5月20日

第7回ニューロサイエンスセミナー（金沢大学）
米国 Indiana 大学 Ghetti 教授歓迎会



2005年5月25日

金沢大学神経内科同門会（鹿児島）

2005年7月7～8日

厚生労働省難治性疾患克服研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究班、アミロイ
ドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班「ア
ミロイドーシス夏のワークショップ2005」

(片山津・ホテルアローレ)



2005年7月21日

第8回ニューロサイエンスセミナー（金沢大学）
独 Heidelberg 大学 Frölich 教授歓迎会



2005年7月22～23日

第1回金沢神経内科アカデミー開催

2005年10月13日

第9回ニューロサイエンスセミナー（金沢大学）
京都大学大学院生命科学研究科・
高次生体統御学分野教授 垣塚 彰先生

2005年11月26～27日 第33回神経病理懇話会主催（金沢大学）



2005年12月3日 金沢大学神経内科同門会・学術集会／総会

2004年12月20日 医局忘年会（金沢）

（2）大学人事異動

2005年4月

<転入>

石田千穂：公立能登総合病院神経内科医長から大学助手へ

島啓介：市立敦賀病院から大学院へ

辻口悦子：事務員として採用

米原洋子：事務員として採用

<転出・異動>

古井英介：大学より広南病院へ

丸田高広：大学より恵寿総合病院へ

浜口毅：大学より国立病院機構金沢若松病院へ

佐村木美晴：大学より国立病院機構医王病院へ

安川善博：恵寿総合病院から厚生連高岡病院へ

松本泰子：金沢医療センターから浅ノ川総合病院へ

柳瀬大亮：国立病院機構金沢若松病院から公立能登総合病院へ

池田篤平：富山市民病院から金沢医療センターへ

池田芳久：石川県立中央病院から福井県立病院へ

能登大亮：福井済生会病院から富山市民病院へ

大滝美千代：福井県立病院から石川県立中央病院へ

大杉文子：事務員退職

嶋良子：事務員退職

2005年6月

吉田光宏：Imaging of Dementia & Aging (IDeA) Laboratory,
Department of Neurology & Center for Neuroscience,
University of California at Davis(米国)へ留学

小野賢二郎：医員から助手へ

2005年10月

高橋和也(医員)：University Bonn(ドイツ)から入局

(3) 2005年 金沢大学神経内科同門会学術集会／総会

日時 12月3日(土) 16時

場所 金沢都ホテル 7階 鳳凰の間

金沢市此花町6-10 Tel 076-261-2121

学術集会

I 一般演題 座長 駒井清暢 (16時05分～16時45分)

1) 北陸地方における家族性アミロイドポリニューロパチーについて

a) 石川県における集積状況について

金沢大学大学院脳老化・神経病態学 加藤裕子

b) 石川県各病院における経験症例について

金沢大学大学院脳老化・神経病態学 島 啓介

金沢大学大学院脳老化・神経病態学 加藤裕子

金沢市立病院 神経内科 杉山 有

町立山中病院 神経内科 古川 裕

石川県立中央病院 神経内科 吉長知史

公立能登総合病院 神経内科 柳瀬大亮

同 町谷知彦

国立病院機構 神経内科 横地英博

c) 富山県、福井県における家族性アミロイドポリニューロパチーについて

指定発言 広小路神経内科クリニック 高堂松平

福井県立病院神経内科 宮地裕文

Ⅱ 特別講演 座長 沖野惣一 (16時55分～18時05分)

1) マクログリアTREM2の機能解析

金沢大学附属病院神経内科

高橋和也

2) 福井県における難病医療ネットワークの現状

福井県立病院神経内科

宮地裕文

追加発言)

a) 石川県での難病医療ネットワークの構築状況

金沢大学大学院脳老化・神経病態学 駒井清暢

b) 医王・金沢若松病院の統合新病院における神経・筋難病の取り組みについて

医王病院神経内科

沖野惣一、佐村木美晴、
浜口 毅、小竹泰子、
山口和由

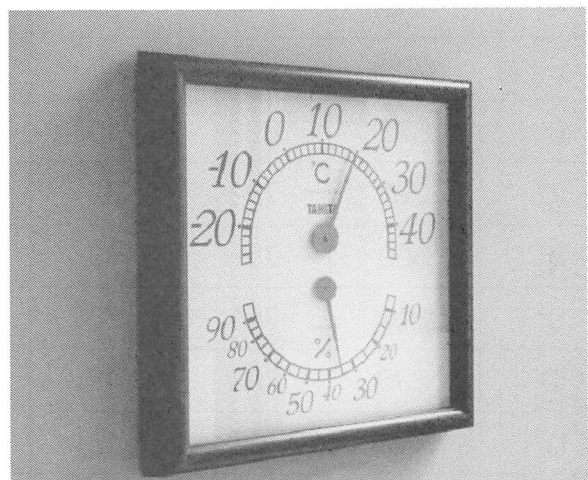


金沢大学神経内科同門会集合写真





〈2005年医局集合写真〉



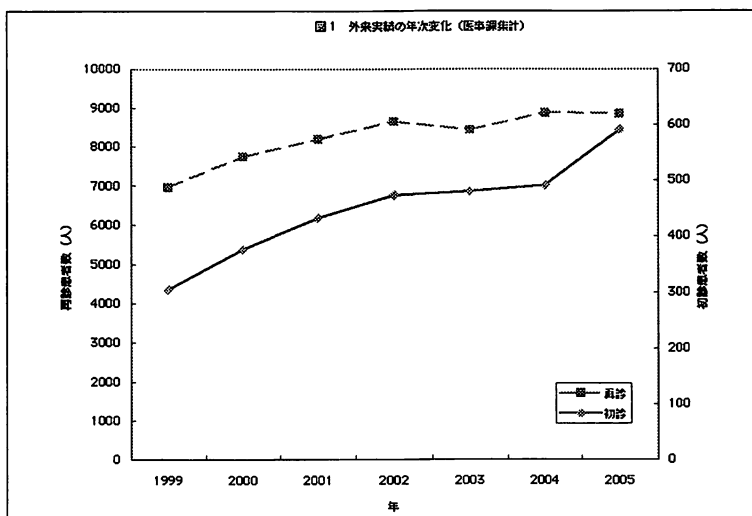
[2] 診 療

(1) 外来実績

本年の外来患者数（医事課集計と神経内科集計）と、年報1号（1999／2000年）からの年次変化（医事課集計）をグラフに示してみました（表1、図1）。医事課集計の初診患者には、院内より紹介された外来・入院患者の神経内科初診は含まれておらず、神経内科集計の初診患者数とは差異が生じます。近年、再診、初診ともに増加してきていますが、特に初診患者は1999年の2倍近くとなりました。おそらく大学病院だけの現象ではなく、一般に神経内科の専門性が広く認識されてきた結果であり、大変喜ばしいことです。しかし、外来診察医が増えない中で、ますます外来診療が多忙となってきているのが実情です。そのような状況で、外来業務には以下のように大きな変化がありました。

表1 外来患者数

月	医 事 課 集 計			神 経 内 科 集 計			
	患者数合計 (人)	再診	初診	初 診			
				患者数 (人)	患者数 (人)	初診患者数 (人)	院内紹介 (人)
1	674	636	38	87	44	19	24
2	761	713	48	95	46	25	24
3	806	754	52	95	49	23	23
4	819	764	55	109	59	21	29
5	709	662	47	77	28	28	21
6	872	823	49	99	57	20	22
7	791	729	62	117	49	29	39
8	800	757	43	113	55	33	25
9	814	754	60	107	49	33	25
10	836	794	42	99	46	22	31
11	763	715	48	98	46	24	28
12	787	741	46	91	44	24	23
合 計 (前年比%)	9432 (101)	8842 (100)	590 (120)	1187 (109)	572 (96)	301 (131)	314 (120)



〔1〕 再診担当と初診担当の分担

昨年度までは、外来医に初診・再診担当の区別なく、再診予約患者を優先し、その後で初診患者の診察を行ってきましたが、初診患者の待ち時間が長いことが非常に問題になっていました。また、病院からも、紹介患者は30分以内に診療を開始する方針が打ち出されました。そこで、月、水、木には、再診医とは別に初診担当医を2人ずつ配置しました（表2）。改善された点としては、初診患者の待ち時間の減少と、待ってもらっているという診察医のストレスの軽減があげられます。一方、初診担当医と2回目以降の担当医が違ってくるケースがあること（初診担当のみの先生には大変気を使って戴いています）や、再診担当医の予約患者がやはり増えてしまうことなど、いまだ問題点は多いのですが、現在のシステムは軌道にのりつつあり、今後しばらくこの方法で継続してゆく予定です。

表2 2005年度外来担当医
4～5月

曜日	月	火	水	木	金
初診	岩佐 吉田	古川 石田	松本 浜口	石田 小野	小竹
再診	山田* 駒井* 石田		駒井* 吉川* 吉田	山田* 岩佐	
ものわすれ外来（初診） （午後）				山田 吉田	

6～10月

曜 日	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 小竹	古川 石田	松本 浜口	石田 小野	野口 岩佐 石田
再 診	山田* 駒井* 石田		駒井* 吉川* 小野	山田* 岩佐	
ものわすれ外来（初診） （午後）				山田 小野	

11月～

曜 日	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 高橋	小竹 古川	松本 浜口	石田 小野	高橋 野口
再 診	山田* 駒井* 石田		駒井* 吉川* 小野	山田* 岩佐	
ものわすれ外来（初診） （午後）				山田 小野	

*紹介患者初診

[2] 電子カルテの導入とフィルムレス化

8月1日よりいよいよ当院も外来にかぎり電子カルテ化となり、他院への紹介状や返書も端末入力を義務づけられました。また、フィルムレス化がすすみ、単純写、MRIなど、すべて端末で見ることになりました。電子カルテは利点もあるのですが、現在問題が山積しています。端末の画面切り替わりがさらに遅くなったこと、あまり、一度に多くのデータを保存するとフリーズしてしまったり前ぶれなくデータが消えることがあること、など、トラブルが多く、特に初診診療時間はこれまでの1.5倍かかっ

ています。これまでになかった（これまでになかったのが不思議ですが）初診問診表を利用するなど若干の工夫を試みているところです。

どちらの病院でも同様な経験をされているとは思いますが、特に当院のような膨大なデータのある病院にとっては、診療以外のひとつひとつに時間をとられてしまうという点が問題で、今後の改良が望まれます。

教授回診日（火曜日）や、診察医不足の曜日に際し、外来診療をご協力いただいた小竹先生、松本先生、浜口先生、また、多忙、多種にわたる外来業務をすすめるにあたり、受付を担当していただいている中田さん、米原さん、澤田さんには、この場をかりて厚く御礼申し上げます。今後、初診患者がますます増加していく中で、検査・診断後の治療や経過観察は他の病院・医院の先生方をお願いするケースもさらに増えてゆくかと思われませんが、なにとぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（外来医長 石田千穂）

（2）病棟

神経内科病棟は東10階にあり、病床数は、20床で皮膚科との混合病棟です。退院患者の総のべ人数は2002年（1月～12月）167例、2003年（1月～12月）163例、2004年（1月～12月）198例、2005年（1月～12月）186例となっております。今年度は2004年より下回りましたが、病棟主治医の人数が2名減ったことを考慮すると1人／月の割合で昨年を下回るだけであり、むしろ、今年の病棟主治医の頑張りを強調したいと思います。退院患者は以下に示す通りです。神経変性疾患、免疫性神経疾患や感染症では入院が長期化する傾向があり、在院日数の短縮に困難を伴った。脳血管障害患者が少ない印象は否めませんが、病院全体として脳血管障害に対する救急体制を見直す時期にきているのではないのでしょうか。また、近年、問題になっていた退院患者のカルテ返却状況ですが、2005年の6月以降はつねに100%をキープしてきたことも付け加えさせていただきます。病棟業務を中心に頑張ってくれた加藤先生、柴田先生、島先生、町谷先生、森永先生、ありがとうございます。そして、病床数の関係上、入院が必要な患者を引き受けて下さった国立病院機構金沢医療センターをはじめとする関連病院の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

今後は、在院日数を少しでも短縮して、より一層病棟運営がスムーズに行われるよう、スタッフ一同、全力で取り組んでいきたいと思っております。

<疾患内訳>

血管障害：15例

脳梗塞	12例
脊髄梗塞	1例
その他の血管障害	2例

感染症・炎症性疾患：18例

髄膜炎	4例
脳炎	3例
神経梅毒	1例
急性小脳炎	2例
脳神経麻痺	1例
帯状疱疹感染症	1例
肥厚性硬膜炎	6例

変性疾患：34例

原発性側索硬化症	1例
筋萎縮性側索硬化症	11例
球脊髄性側索硬化症	1例
Parkinson病	2例
進行性核上性麻痺	4例
皮質基底核変性症	3例
多系統萎縮症	3例
パーキンソニズム	1例
歯状核赤核ルイ体萎縮症	1例
Spinocerebellar ataxia	3例
レビー小体型認知症	4例

筋疾患：31例

筋ジストロフィー	2例
多発筋炎	1例
皮膚筋炎	2例
封入体筋炎	5例
重症筋無力症	16例
ミトコンドリア脳筋症	1例
多発性筋痛症	1例
その他の筋疾患	3例

末梢神経障害：19例

ギランバレー症候群	2例
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	5例

血管炎性ニューロパチー	3例
その他の末梢神経障害	9例
内科・全身性疾患に伴う神経疾患：23例	
悪性リンパ腫	3例
シェーグレン症候群	12例
サルコイドーシス	1例
アミロイドーシス	1例
糖尿病	1例
傍腫瘍性症候群	2例
Crow-Fukase 症候群	1例
全身性エリテマトーデス	1例
アルコール性小脳失調症	1例
脱髄性疾患：14例	
多発性硬化症	11例
急性散在性脳脊髄炎	3例
てんかん：1例	
その他：31例	
海綿静脈洞症候群	1例
蘇生後脳症	1例
前頭側頭葉変性症	1例
頸部炎症	1例
頸椎症	7例
腰椎症	1例
腰部脊柱管狭窄症	2例
脊髄ヘルニア	1例
脊髄腫瘍	2例
横断性脊髄症	1例
平山病	1例
家族性低K血症性周期性四肢麻痺	1例
特発性ジストニア	1例
不随意運動	2例
メニエール病	1例
迷走神経反射	1例
ショック	1例
眼窩部痛	1例
解離性障害	1例
その他の精神疾患	3例

[3] 症例検討会・各種カンファレンス

(1) 2005年症例検討会

日付	年齢 性別	題名	疾患名(疑い例を含む)	主治医
1月 4日	57M	骨 Paget 病に合併した脊髄ヘルニアの1例	Spinal cord hernia with Paget disease	加藤、丸田、駒井
1月 11日	71F	当初 CJD が疑われた1例	Autoimmune encephalopathy s/o	野崎、丸田、駒井
1月 18日	56M	心臓バイパス術後の発症した ADEM の1例	Acute disseminated encephalomyelitis s/o	佐村木、古井
1月 25日	76M	関節痛のみられた PMR の1例	Polymyalgia rheumatica	柴田、佐村木、古井
	53F	右下肢の筋力低下・筋萎縮を主訴に来院した53歳女性	Motor neuron disease s/o	熊田、坂尻 (石川県立中央病院)
2月 1日	66M	発語障害で初発した PSP が疑われる1例	Progressive supranuclear palsy	野口、吉田
2月 8日	44M	発症時、脳腫瘍が疑われた脳幹病変の1例	Brain stem encephalitis (para infectious)	佐村木、古井
2月 15日	67F	Sjögren 症候群合併 Sensory ataxic neuropathy の新規治療法の提言	Sensory ataxic neuropathy due to Sjögren syndrome	加藤、丸田、駒井
	68F	亜急性に進行し動揺を示す意識障害、発熱、嘔吐を伴う	Normal pressure hydrocephalus	池田、坂尻 (石川県立中央病院)
2月 22日	60F	臨床症状は軽微ながら広範な頸髄病変を認めた1例	Cervical intramedullary lymphoma s/o	町谷、野口、吉田
3月 1日	72M	平山病経過中に遅発性に対側の筋萎縮、筋力低下を認めた1例	Juvenile muscular atrophy of distal(unilateral) upper extremity s/o	加藤、丸田、岩佐
3月 8日	55M	再発性単純疱疹を合併し、四肢の異常感覚を呈した1例	Chronic VZV infection	野崎、丸田、岩佐
3月 15日	49F	高度な肝機能障害を呈し、頭部 MRI にて異常信号を認めた1例	Cerebral infarction	町谷、野口、吉田
3月 22日	66M	下肢近位筋優位の筋力低下の1例	inclusion body myositis	森永、小野、駒井
3月 28日	23F	高 CK 血症を呈した1例	Hyper CKemia	柴田、佐村木、古井
4月 5日	19F	慢性頭痛の経過中に頭蓋内病変を認めた1例	Lt. periocular pain due to parasellar chronic inflammation	町谷、野口、吉田
4月 12日	17M	平山病の1例	Hirayama disease	柴田、石田
4月 19日	54M	脳幹を含む多発脳病変の1例(Part 1)	Multiple brain lesions	森永、吉田
4月 26日	71M	高齢発症の脊髄障害の1例	Primary progressive multiple sclerosis (probable) s/o	町谷、岩佐

5月 2日	65M	進行する上位運動ニューロン障害の1例	Primary lateral sclerosis s/o	柴田、石田
5月10日	75F	多発単神経炎の1例	Multiple mononeuropathy (Vasculitic neuropathy s/o)	町谷、岩佐
5月17日	57M	好酸球増多を伴った多発性脳脊髄炎の1例	Recurrent encephalomyelitis	加藤、小野、駒井
5月31日	70M	P O E M S 症候群の1例	Crow-Fukase syndrome	森永、小野
6月 7日	57F	左耳下腺部・腹部に腫瘍を認めた sensory-neuropathy の1例	Paraneoplastic syndrome: subacute sensory neuropathy, anti-Hu Ab (+)	加藤、小野、駒井
	70F	てんかん重責発作をきたした1例	Epilepsy	黒田、坂尻 (石川県立中央病院)
6月14日	61M	皮膚筋炎の胸部病変について	Dermatomyositis	町谷、岩佐
6月21日	79M	ブラウン・セカール症候群を呈した急性発症ミエロパチーの1例	Spinal cord infarction	島、駒井
	54M	脳幹を含む多発脳病変の1例 (Part 2)	Multiple brain lesions	森永、小野
6月28日	54M	亜急性発症の transverse myelopathy の1例	Transverse myelopathy + polyneuropathy	太田、加藤、駒井
7月 5日	51M	無菌性髄膜炎を伴った GBS の1例	Guillain-Barré syndrome	島、駒井
	65F	複合因子が原因と考えられるポリニューロパチーの1例	Polymeuropathy due to vitamin deficiency	大滝、坂尻 (石川県立中央病院)
7月12日	75M	興味ある MRI 画像を呈した脳炎の1例	Viral encephalitis s/o	加藤、駒井
7月19日	77M	Motor dominant CIAP の1例	Chronic idiopathic axonal polyneuropathy	柴田、石田
8月 2日	16F	大脳白質多発異常信号を伴った16歳女性	Neonatal CMV infection s/o	町谷、岩佐
8月 9日	40M	特発性パーキンソニズムの1例	Parkinsonism	森永、小野
8月16日	67M	ステロイド中止後に発熱と四肢筋力低下を認めた末梢神経障害の1例 (Part 1)	Peripheral neuropathy due to systemic vasculitis s/o	町谷、岩佐
9月 6日	67M	ステロイド中止後に発熱と四肢筋力低下を認めた末梢神経障害の1例 (Part 2)	Peripheral neuropathy due to systemic vasculitis s/o	町谷、岩佐
9月13日	71M	OPLL 術後3ヶ月経過ののち右膝関節不随意屈曲運動が出現した1例	Abnormal involuntary movement of bilateral lower limbs	町谷、岩佐
9月20日	48M	運動優位の亜急性多発性根神経障害を認め、抗 RNP 抗体陽性を呈した1例	Multiple cranial neuropathy and radiculopathy due to systemic lupus erythematosus s/o	角田、加藤、駒井
9月27日	57F	Cavernous sinus syndrome を呈した1例	Left cavernous sinus syndrome	角田、島、駒井

10月4日	40F	抗Sm抗体陽性で頭蓋内多発病変を呈した症例	Multiple sclerosis	島、駒井
10月11日	69F	IgG λ型 M-protein 陽性の polyneuropathy の1例	Crow-Fukase syndrome	柴田、石田
10月18日	50F	ミオクローヌスで発症し、経過中に痙攣発作、ミオキミアを認めた1例	Paraneoplastic syndrome	町谷、岩佐
10月25日	62F	北陸地方(当院)におけるSCDの病型について	Hereditary spinocerebellar degeneration	町谷、岩佐
11月1日	56M	多発性脳神経麻痺の病態と治療	Basal meningitis	高橋、岩佐
11月8日	57F	ITPを合併した多発神経炎の1例	Chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy	島、駒井
11月22日	48F	シェーグレン症候群を合併した重症筋無力症の1例	Myasthenia gravis	加藤、駒井
11月29日	23M	逆行性健忘で発症し、肥厚性硬膜炎が疑われた1例	Dissociative disorders	島、高橋
12月6日	14M	AD HMSN type 2の1例－AD HMSN type 2, classical typeの本邦での報告とその臨床的特徴－	Hereditary motor sensory neuropathy type 2	柴田、石田
12月13日	55F	キアリ奇形を伴った小脳失調症の1例	SCD with Chiari I malformation	森永、小野
12月20日	62M	PSPの1例	Progressive supranuclear palsy	森永、小野

(2) CPC/死亡症例検討会

3月8日	74F	非ホジキンリンパ腫による末梢神経障害の1剖検例	Axonal motor sensory autonomic polyneuropathy and multiple cranial neuropathy due to B cell lymphoma	柴田、古井
5月31日	59M	Lambert-Eaton 症候群の1剖検例	Lambert-Eaton myasthenic syndrome	町谷、吉田
11月15日	66F	緩徐進行性の視覚障害で発症し臨床的にCJD (Heidenheim variant) が疑われた1剖検例	MM 2 type sporadic Creutzfeldt-Jakob disease	野崎、小野、丸田、駒井

(3) 生 検

2005年疾患うちわけ（臨床診断（疑い病名を含む））

筋	炎症性ミオパチー	18
	高CK血症	2
	肢帯型筋ジストロフィー	2
	封入帯筋炎	1
	横紋筋融解症	1
	ベッカー型筋ジストロフィー	1
	眼咽頭筋型ジストロフィー	1
	糖尿病性筋萎縮	1
	家族性周期性四肢麻痺	1
	慢性進行性外眼筋麻痺	1
	ミトコンドリアミオパチー	1
	多発神経炎	1
	筋萎縮（原因不明）	1
		計 32 例
神 経	多発神経炎	4
	慢性炎症性脱髄性末梢神経炎	2
	POEMS症候群	2
	感覚性運動失調型ニューロパチー	1
	傍腫瘍症候群	1
	遺伝性運動感覚ニューロパチー	1
	遺伝性運動ニューロパチー	1
	アミロイドーシス	1
	SLE	1
	血管炎	1
	計 15 例	
皮 膚	CADASIL	1
	大脳白質変性症	1
	計 2 例	
脳	クロイツフェルト・ヤコブ病	1
	計 1 例	

生検所属内訳

	検体数
金沢大学附属病院 神経内科	27
金沢大学附属病院 他科	1
石川県立中央病院 神経内科	5
石川県立中央病院 他科	1
松任中央病院 他科	1
市立砺波総合病院 神経内科	4
厚生連高岡病院 神経内科	3
福井県立病院 神経内科	3
福井済生会病院 神経内科	5
敦賀市民病院	1
東北大学	1
計	52

(4) 生検カンファレンス

年月日	診 断 (疑い病名を含む)	所 属	担 当 医
1月4日	皮膚筋炎	金沢医療センター	松本
1月11日	多発ニューロパチー	能登総合病院	石田
	局所性筋炎あるいは横紋筋融解症	石川県立中央病院	坂尻
2月1日	シェーグレン症候群にともなうニューロパチー	当科	加藤、丸田、岩佐
3月22日	皮膚筋炎	福井済生会病院	能登
3月29日	CIDP	当科	柴田、佐村木、古井
	多発性単ニューロパチー	石川県立中央病院	坂尻
	封入体筋炎	当科	森永、小野、駒井
	原因不明のミオパチー	当科	柴田、佐村木、古井
4月19日	LGM D	当科	加藤、小野、駒井
4月26日	Monomelic amyotrophy, 高CK血症	福井県立病院	宮地
	RS3PE	福井県立病院	濱田
	封入体筋炎	当科	柴田、石田
5月2日	糖尿病性筋萎縮症	当科	森永、吉田
5月10日	LGM D	当科	加藤、小野、駒井
5月17日	結節性動脈周囲炎, 筋炎	当院リウマチ内科2	石田
	眼咽頭型筋ジストロフィー	当科	町谷、吉田
	多発筋炎	砺波総合病院	白崎
5月24日	POEMS症候群	当科	森永、小野、吉田
	皮膚筋炎	当科	町谷、吉田
6月7日	多発性単神経炎	福井済生会病院	岩佐
	多発筋炎	当科	柴田、石田
	筋炎	砺波総合病院	白崎
6月21日	皮膚筋炎	福井県立病院	池田芳
	炎症性ミオパチー	厚生連高岡病院	品川

7月 5日	傍腫瘍性ニューロパチー 多発神経炎	当科 石川県立中央病院	加藤、駒井 大滝、坂尻
7月 19日	軸索障害型ニューロパチー	当科	柴田、石田
8月 2日	筋炎	石川県立中央病院	内山
8月 9日	全身性血管炎	当科	町谷、岩佐
8月 16日	遺伝性ニューロパチー 家族性周期性低カリウム性四肢麻痺	当科 当科	柴田、石田 加藤、駒井
8月 23日	家族性アミロイドポリニューロパチー	当科	島、駒井
8月 30日	筋炎 多発筋炎 ミトコンドリアミオパチー	福井済生会病院 厚生連高岡病院 当科	岩佐 安川 加藤、島、駒井
9月 20日	高CK血症	砺波総合病院	白崎
10月 4日	血管炎性ニューロパチー	石川県立中央病院	坂尻
10月 11日	複合ビタミン欠乏性ニューロパチー CIDP POEMS症候群	当科 当科 当科	島、駒井 島、駒井 柴田、石田
11月 1日	Becker型筋ジストロフィー	市立敦賀病院	岩佐
11月 15日	皮膚筋炎	福井済生会病院	岩佐
11月 29日	皮膚筋炎 ミトコンドリアミオパチー	当科 当科	町谷、岩佐 森永、小野
12月 27日	横紋筋融解症 皮膚筋炎	厚生連高岡病院 石川県立中央病院皮膚科	安川 筒井、有川

(5) 臨床神経セミナー

月1回月曜午後5時30分から神経内科、脳神経外科、神経精神科の3科合同で、各科が症例を持ち寄ってカンファレンスを行っています。2004年に神経内科から提示した症例を表に示します。

年月日	症例	タイトル	担当
2005年			
2月 14日	44 M	発症時、脳腫瘍が疑われた脳幹病変の1例	佐村木、古井
3月 14日	76 M	片側視床の微小梗塞により記憶力障害が生じた一例	野口、町谷、吉田
4月 18日	60 F	頸髄原発の中樞神経リンパ腫の一例	町谷、岩佐
5月 16日	57 M	好酸球増多を伴った多発性脳脊髄炎の一例	加藤、駒井
6月 20日	79 M	Brown-Séquard 症候群を呈し、脊髄血管障害が疑われた1例	島、駒井
7月 11日	37 M	Ataxic gait で書初した syphilis の1例	柴田、石田
9月 12日	78 F	うつ症状が進行した probable DLB の1例	加藤、駒井
10月 17日	57 F	Cavernous sinus syndrome を呈した1例	島、駒井
11月 21日	23 M	逆行性健忘で発症した肥厚性硬膜炎の1例	島、高橋
12月 19日	55 F	キアリ奇形を伴った小脳失調症の1例	森永、小野

(6) もの忘れ外来検討会

毎月1回もの忘れ外来を受診した症例について、医局員、薬剤師、心理士、リハビリの方々が集まって検討会を開いている。ここでは、症例の検討、もの忘れ外来のあり方、今後の認知症の臨床研究の方向性などに関して討論している。

日	付	症例検討数
2005年	1月7日	0例
	2月18日	8
	3月10日	8
	4月14日	8
	5月19日	7
	6月23日	11
	7月15日	7
	9月9日	8
	10月14日	13
	11月10日	10
	12月8日	5

(7) ニューロサイエンスセミナー

- 第7回ニューロサイエンスセミナー：平成17年5月20日（金）

Bernardino Ghetti : Distinguished Professor, Director, Indiana Alzheimer Disease Center Indiana University School of Medicine Department of Pathology and Laboratory Medicine

“Molecular Basis of Gerstmann-Sträussler-Scheinker Disease”

- 第8回ニューロサイエンスセミナー：平成17年7月21日（木）

Lutz Frölich : Head, Division of Geriatric Psychiatry, Central Institute of Mental Health, University of Heidelberg

“Structure and first results of the German Competence network on dementias”

Erik Weimer

“The electronic data banking system of the German Competence network on dementias”

- 第9回ニューロサイエンスセミナー：平成17年10月13日（木）

垣塚 彰：京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授

“神経変性疾患における V C P 蛋白質の役割”

[4] 教育活動

(1) 神経系疾患系統講義

● 2005年度 対象：医学部医学科4年生

年月日		タイトル	講義担当者
2005年			
4月15日	総論	Neurology 入門(1): Neurology とは?	山田正仁
4月15日		Neurology 入門(2): 診断学入門	山田正仁
5月6日		神経内科の検査(1): 病理学的検査ほか	石田千穂
6月8日		神経内科の検査(2): 整理学的検査、髄液検査ほか	駒井清暢
5月13日	各論	神経変性疾患(2): 運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症	駒井清暢
5月20日		神経変性疾患(1): 錐体外路系疾患、痴呆性疾患	山田正仁
6月6日		意識障害の診断	駒井清暢
6月10日		神経系感染症、脱髄性疾患	駒井清暢
7月1日		脳血管障害の診断と治療	石田千穂
7月8日		神経系の代謝性・中毒性疾患・全身性疾患に伴う神経障害	岩佐和夫
9月2日		末梢神経・自律神経系疾患	岩佐和夫
9月9日		神経筋接合部疾患および筋疾患	吉川弘明
9月16日		神経系の発作性・機能的疾患	岩佐和夫
10月14日	特別講義	神経変性疾患に共通する発症機構の解明を目指して	垣塚 彰*
6月6、8、10日	チュートリアル	意識障害 (脳炎)	駒井、岩佐、石田

* (京都大学教授)

(2) 診断学実習

(医学部4年生対象)

1グループあたり計20回の診断学実習が行われました。神経内科はうち4回の神経診断学を担当しました。

● 2005年春・秋学期

学生総数 98名、総授業数 20回

担当：駒井清暢、岩佐和夫、吉田光宏、石田千穂、小野賢二郎

(3) 臨床講義

● 2005年 対象：医学部医学科4年生

年月日	症例	タイトル	疾患名	講義担当者
(2004年度：11～3月まで計9回)				
1月7日	46 F	右上肢の筋力が低下し始めた頃に腎不全を指摘された、その後……。	脱髄性ポリニューロパチー	山田正仁
1月14日	36 M	私の病気を知りたい	筋萎縮性側索硬化症	山田正仁
1月21日	32 M	包丁が重い……	重症筋無力症	駒井清暢
1月28日	71 F	畑工作中に徐々に両足が重くなってきた	皮膚筋炎	山田正仁
2月4日	44 F	しゃべりにくくなった。歩きにくくなった。そして……	多発性硬化症	駒井清暢
2月18日	32 F	二人羽織をしているみたい……	感覚失調性ニューロパチー	山田正仁
3月4日	35 F	急速に発症した意識障害・片麻痺	アテローム血栓性脳梗塞	古井英介
(2005年度：11～3月まで計10回)				
11月11日	52 F	喋りにくく、飲み込みにくい52歳女性	重症筋無力症	山田正仁
11月18日	48 M	立ち上がり困難の男性	皮膚筋炎	駒井清暢

(4) 臨床実習 (BSL)

開始日	終了日	グループ数	学生総数
● 2004年度冬学期			
1月11日	3月22日	3	18
● 2005年度春学期			
4月11日	7月20日	6	36
● 2005年度秋学期			
10月17日	12月9日	5	30

4年生の診断学実習では、4回の実習のうち最終日にはOSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) 形式のテストを以前から継続しています。近年、診断学全体がOSCE評価となる中で、当科ではあらかじめ予行ができるということで学生には好評のようでした。

神経内科の臨床講義プラカンは、1, 2を争う厳しさであるとの、学生間での噂です。し

かし、明らかに学生の神経内科の内容に対する理解が年々深まってきているのがわかります。各種試験の平均点も上昇してきており、学生教育が身を結んでいるものと思われま

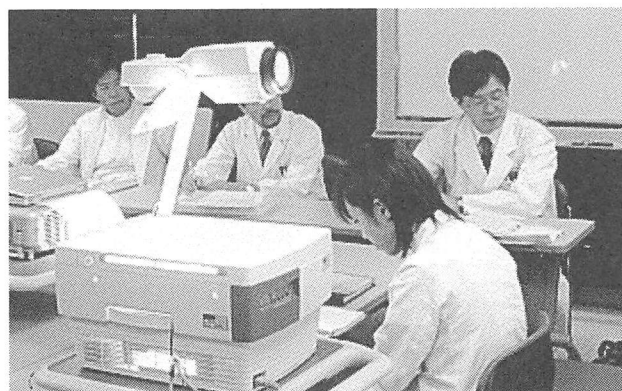
す。臨床実習（BSL）のスケジュールは昨年と同様でした。実習にご協力いただきました、新田先生、沖野先生にはこの場を借りて深謝申し上げます。実際に病棟主治医として学生指導にあたった野口先生、佐村木先生、加藤先生、柴田先生、町谷先生、森永先生、島先生、本当に忙しい中をありがとうございました。

BSLスケジュール（月曜スタート）

曜日	午前	午後
月	9:00 ガイダンス	
火	8:00 病棟教授回診	若松/医王病院見学、18:00 医局 CC
水	8:00 診療グループ回診、外来ポリクリ（駒井）	
木	8:00 診療グループ回診、外来ポリクリ（山田）	
金	8:00 診療グループ回診、9:30 講義	
月	金沢医療センター見学	金沢医療センター見学
火	8:00 病棟教授回診	学生 CC、教授面接、18:00 医局 CC

BSLスケジュール（木曜スタート）

曜日	午前	午後
木	9:00 ガイダンス	
金	8:00 診療グループ回診、9:30 講義	
月	金沢医療センター見学	金沢医療センター見学
火	8:00 病棟教授回診	若松/医王病院見学、18:00 医局 CC
水	8:00 診療グループ回診、外来ポリクリ（駒井）	
木	8:00 診療グループ回診、外来ポリクリ（山田）	
金	8:00 診療グループ回診、9:30 学生 CC	教授面接



(5) 金沢大学共通教育機構：教養的科目・講義

- 山田正仁：病気と予防 (Preventive Medicine) 『痴呆と予防』 (1回)

2005年6月24日

(6) 大学院医学研究科医科学専攻 (修士課程) 講義

- 山田正仁：修士課程形態学カリキュラム 『脳神経』 (2回)

2005年7月15日

2005年7月22日

(7) 医学部保健学科講義

- 2005年前期 神経病態学講義

対象：理学療法学専攻・作業療法学専攻課程2年

学生総数 40名

講義回数 全13回、30時間

講師 瀧澤泰樹、駒井清暢

- 2005年後期 病態生理学 II

対象：検査技術科学専攻3年

学生総数 40名

講義回数 全2回、4時間

講師 駒井清暢

(8) 薬学部演習講義

- 2005年度金沢大学薬学部医療薬学演習

対象：3, 4年生、大学院生を含む

学生総数 約150名

「薬物療法を学ぶ・アルツハイマー病」

講師：山田正仁、2005年10月27日

「薬物療法を学ぶ・パーキンソン病」

講師：駒井清暢、2005年10月28日

(9) 金沢神経内科アカデミー

金沢大学大学院脳老化・神経病態学 (神経内科) では、神経内科の魅力をも医学部学生ならびに研修医に知ってもらうために、神経内科臨床および基礎研究に実際にふれってもらう機会を作りました。

7月22日(金)

- 9:00 参加者医局集合
オリエンテーション
- 9:30 病棟実習 主治医グループに参加し、患者診察や処置の見学
カンファレンスに参加
- 11:00 検査実習または外来実習
- 12:30 昼食・教授挨拶
- 13:30 もの忘れ外来実習
- 15:00 認知機能検査概要・見学
- 16:00 検査実習・MRI画像の読み方
- 17:30 終了
- 18:30 親睦会 会場：金沢市内

7月23日(土)

- 9:00 医局集合
各研究実習の概要説明・実習
- 12:00 昼食
- 13:00 研究実習続き
- 15:00 終了

<実習内容>

遺伝子

Prion 蛋白遺伝子を例にして、遺伝子検査の実際を体験する。

神経病理

1. 剖検から brain cutting, 標本作成までの流れ
2. 病理標本の観察のしかた
3. 代表的疾患の病理標本の観察：臨床症状との対応

神経化学

アルツハイマー病の原因物質とされる $A\beta$ が重合していく過程を試験管内モデルを用いた実験にて、一緒に体験する。

神経免疫

自己免疫性神経疾患で出現する自己抗体の検出のために行われるウェスタンブロットを体験してみる。